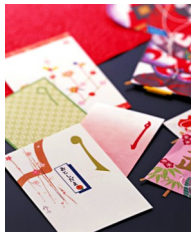


日蓮宗 常栄山
本照寺だより

新年 明けましておめでとうございます



お年玉



■皆さま方には
一家お揃いで平和
な新年を迎えられ
ましたことと大慶
に存じます。
また喪中の方々
には謹んでお悔や
み申しあげます。
さて、本年も本



羽根突き

払込取扱票									
02	00	23	07	35	74	9	00	23	07
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35
00	23	07	35	74	9	00	23	07	35

何年も
払い込
みの無
い方が
いらつ
しやい
ます。
うつか
り忘れ
ていら

■毎年、年頭に「払い込み
用紙」をお送りしていますが、

5年前の写真
m()m



照寺は
除夜の
鐘を打
ち鳴ら
して元
気に元
旦の朝
を迎え

「付け届けをお忘れ無く」

ができました。除夜の澄み切つた夜空に当山の鐘の音がゴーンと響き渡ると、毎年

ができました。除夜の澄み切つた夜空に当山の鐘の音がゴーンと響き渡ると、毎年

第49号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438

「献血へのご協力を！」 54名の協力が

本厚木駅前にて

■昨年の10月4日(木)、
厚木市仏教会(壽永純昭会長・
69カ寺中46カ寺会員)は本厚木駅
前で、恒例と
なつた献血啓
発活動を行



ました。午前10時から午後3
時まで、「献血にご協力お願
いします！」と道行く人々
に訴え、54人の方々からあり
がたい献血へのご協力をいた
だいた次第です。

■以前にも書きましたが、
厚木バスセンター対面にある



本厚木駅前にて「ご協力を！」

「献血
ルーム」
へは毎
日、50
人程の
協力者
が訪れ
ます。
ある

ように……檀信徒の方々が無事に暮らせますように……と、心から祈念いたしました。本年もみ仏の教えを広めるために(少しですが……)、努力をいたす所存であります。私にとりまして、また新たな年となります。何とぞ本年も宜しくお願いいたします。

■「年の始りめの例(ため)し」として、終りなりなき世のめでたさを松竹たてて門(かど)ごとく祝う今日こそ楽しうけれ

た人まで、毎日50人！正直、驚きでした。……因みに私は献血ができません。「B型肝炎ウイルスのキャリア」です。使用できません」となっています(妻からの感染です)。

法華經に心酔した宮澤賢治の遺言

賢治は17歳で初めて法華經を読み、如來壽量品第16で打ち震える感動をおぼえました

「この一生の間、どこかのな子供も受けないようなご恩をいただきながら、いつもわがままでお心に背き、とうとうこんなことになりました。今生で万分の一もお返しできませんでし



本照寺 檀家様

『ご埋葬』は
イシックスに
お任せ下さい

埋葬料 10,000円 (税込)
清掃・葬石・香炉・火葬 含み
(古くは)

0120-011140

□平塚店
〒254-0014 平塚市西之宮2-24-31
TEL 0463-53-1114 FAX 0463-54-0222
□小田原店
〒250-0011 小田原市堀之内2-5-22 本ビル1F
TEL 0465-20-1114 FAX 0465-20-1135

「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず」(論語・孔子) 和とは自らの主体性を堅持しながら他と協調。同とは自らの主体性を失って他に妥協。

熊本市の名物校長・最後の授業

「親に感謝しろ」

■「或いは兄となり弟となり、或いは姉となり妹となり、或いは夫となり妻となり、殊には親となり子となること、何ぞ深く重い契りなからんや。『我が身は天よりも降らず、我が身は地よりも出でず、父母の肉身を分けたる身なり』と、日蓮大聖人仰せられしは、まさに恩を知り恩に報いる論なり……」。私が通夜や49日法要にて唱える文言です。このたび、「名物校長・最後の授業」として知られる、「親に感謝しろ」を紹介します。

卒業式の日に

■私が考える教育の究極の目的は「親に感謝、親を大切にすること」です。高校生の多くはいままで自分一人の力で生きてきたよう

に思っている。親が苦勞して育ててくれたことを知らないんです。これは天草東高校時代から継続して行なったことですが、このことを教えるのに一番ふさわしい機会として、私は卒業式の日を選びました。式の後、3年生と保護者を全員、視聴覚室に集めて、私が最後の授業をするんです。そのためはまず、形か

大畑誠也 おおはたせいや
(九州ルーテル学院大学客員教授)

ら整えなくちやいかんということ、後ろに立っている保護者を生徒の席に座らせ、生徒をその横に正座させる。そして全員に目をつぶらせてからこう話を切り出します。「いままで、お父さん、お母さんにいろんなことをしてもらったり、心配をかけたたりしただろう。それを思い出し、交通事故に遭って入院した者もいれば、親子げんかをしたり、こんな飯は食えんと、お母さんの弁当に文句を言った者もおる……」

「心から感謝すると思う者は、いま一度強く手を握れ」

親子で抱き合う

■私はそれを確認した上で、こう声を張り上げます。18年間「その手がねえ！ 18年間お前たちを育ててくれた手だ。

金ばたくさん使いなさったぞ

そういう話をしているうちに涙を流す者が出てきます。「お前たちを高校へ行かせるために、ご両親は一生懸命働いて、その金ばたくさん使いなさったぞ。そういうことを考えたことがあったか。学校の先生にお世話になりました」と言う前に、まず親に感謝しろ」

そして「心の底から親に迷惑をかけた、苦勞をかけたと思う者は、いま、お父さんお母さんが隣におられるから、その手ば握ってみろ」と言うわけなんです。すると、一人、二人と手を繋いでいつ、最後には全員が手を繋ぐ。

編集後記

▲上記、「親に感謝しろ」を読んで、如何でしたでしょうか。今は亡き親御さんに対しては往時を思い起こさせ、健在の親御さんに対しては恐縮の念を思い起こさせる、と同時に、心が熱くなられたことでしょうか。■青春ドラマのセリフに「頼みもしないのに勝手に産んで！」などありますが、法華経・日蓮宗では「自ら願って生まれてくる」と説き、これを「願生人・がんしようにん」と言います。自ら望んで生まれて、更に育ててもらって、こうなるんですね。やはり「感謝しろ」なんです。■新年号表紙が一人の写真となりました。実は5年程前から紆余曲折ありまして、いよいよ「離婚」となった次第です……不徳の致すところと申しましようか、逆に一つの経験、と申しましようか……。世は諸行無常でして、すべては常に移り変わります。夫婦の関係もこの枠組みから外れることはできません。諸行無常であるがゆえに、「苦しいまま」「つらいまま」といったこともありません。心も移り変わってゆくのです。■両親も今年満89歳。私と院首（先代）2人で何かと行き届かず（姉2人が協力してくれませんが）、お檀家の皆さんにご迷惑をお掛けすることもあるかと思ひます。何とぞご理解のほどお願い致します。



致知出版社「一流たちの金言」から

式の後、3年生と保護者を全員、視聴覚室に集めて、私が最後の授業をするんです。そのためはまず、形か

本照寺だより19年10月号から

再登場

■通夜・葬儀・告別式・茶毘式・お骨あげ：実はこの悲しみの流れの中に、その心を慰め、癒す力があります。特にお骨あげにいたると遺族は「諦める」といった心境に変わる傾向が強いようです。「諦め」は一見、逃げるようですが、本来は仏

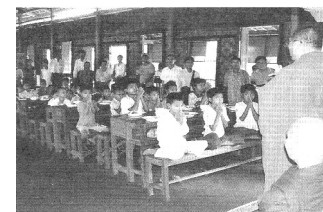
諦める

教用語で、事実を「明らかに観じ」て受け止めることであり、覚りそのもの：「私の父は、母は死んだのだ」といった事実を受け止めるのです。■今年で6年目となった9・11の世界貿易センタービルで亡くなった遺族の多くは、数年経っても故人の写真を貼り「連絡を」と訴えました。そう、死の事実を明らかにできず、よって受け止められず諦められず

：なぜって、そう、遺骨が無いのです……。■近親を亡くした方々への調査によると、悲しみの表現は癒しを早め、悲しみの我慢は癒しを遅くする、との報告があります。悲しみを超えるためには悲しむこと、そう、事実を受け止めること、涙が必要なのです。■「苦をば苦とさとり、樂をば樂とひらいて、苦樂共に思いあわせて南無妙法蓮華經と唱えいさせ給え……」とは、まさに日蓮大聖人さまの覚りです。



アジアにきれいな水で乾杯を水道がなく、雨水を使用している地域に井戸を掘削し贈呈する。手押しポンプ式、地下35メートル程度。ミャンマー、カンボジアなど。



2008年におきたサイクロンにより全壊したラプッタザラックイン小学校の再建に続き、教育と医療支援を、トプティ師のサンガを拠点にして長期的に行っています。

日蓮宗国際協力プロジェクト

■日蓮宗では様々な国際協力支援を執り行っています。今回は2回目として紹介します。

アジアに

きれいな水で乾杯を水道がなく、雨水を使用している地域に井戸を掘削し贈呈する。手押しポンプ式、地下35メートル程度。ミャンマー、カンボジアなど。

ミャンマーサイクロン被災地の小学校再建と地域医療支援

「18年間振り返って、親に本当にすまんかった、心から感謝すると思う者は、いま一度強く手を握れ」と言うとき、あちこちから嗚咽が聞こえてくる。私は、けろ。分かったかや？ 私が教えたかったのはここのこと。親に感謝、親を大切にすること。授業、終り。出て行く。振り返ると、親と子が抱き合っているんです。■親に対する「申し訳ない」との思いが、一気にこみ上げるのでしょ……」

本照寺ではさまざまな活動していますが、特に葬儀や法事を通して人々の死を見つめ、そして悲しみを癒し、共に成長ができればと考えています。通夜で故人の行状文作成・奉読や法話、またこの「本照寺だより」も、その一環としての存在です。